

第4回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日 時 平成28年2月22日（月）午後1時10分～2時40分
- 会 場 市役所北庁舎3階第1会議室
- 出席者 （委員）
藤江会長、長谷部副会長、雄勝委員、奥村委員、志水委員、神野委員、関口委員、田中委員、長島委員、松木委員、吉井委員
（事務局）
中川市民協働推進本部長、岩田市民活動支援課長兼市民協働推進担当主幹、板橋市民協働推進担当副主幹、新妻市民協働推進担当主査、佐藤事務職員
- 欠席者 なし
- 傍聴者 1名
- 議 事
 - 1 開会
 - 2 議題 答申案の検討について
- 資 料
 - 1 協働事業等評価制度について（答申）（案）（資料1）
 - 2 各委員からの意見を踏まえた協働事業等評価制度の検討状況（資料2）
 - 3 協働事業評価フロー（イメージ図）（資料3）
 - 4 協働事業評価シート（案）（資料4）

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第4回府中市市民協働推進会議を開会いたします。まず、事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。それでは、事務局から何点かご報告を申し上げます。

まず、本日の出席状況でございますが、定数11名中11名の委員の皆様に出席をいただいております。

過半数を超えておりますので、本会議は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが、現在までに1名の方の応募があり、1名の方がいらっしゃっています。傍聴の許可につきまして、本会議のご判断をいただきたいと存じます。

(会長) それでは、委員の皆さんにお諮りします。傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(※「異議なし」の声あり)

(会長) それでは、異議がないということですので、傍聴者の入場を許可いたします。事務局をお願いします。

(※傍聴者入場)

(※事務局より資料の確認)

(会長) それでは、議事を進めます。前回11月18日に実施した第3回の会議の議事録につきましては、事前にご確認いただいておりますが、改めて修正等でお気づきになることはございますか。よろしいでしょうか。

(事務局) 2点ほど事務局からございます。

1点目が、15ページです。神野委員さんからのご意見で、一部漏れがございましたので、追記しております。

2点目が、11ページと16ページです。副会長のご意見が委員意見となっておりますので、修正しております。長谷部副会長、神野委員、申し訳ございませんでした。

(会長) 2点ほど修正があったとのことですが、そのほかよろしいでしょうか。それでは、第2回目の会議の議事録として確定させていただきた

と思います。事務局は、前回の議事録及び資料を、市役所3階情報公開室、中央図書館、ホームページ等で公開するよう手続をお願いします。

2 議題 答申案の検討について

(会長) これより議題に入りたいと思います。答申案の検討について、事務局からお願いします。

(事務局) 「答申案の検討」につきまして、事務局よりご説明させていただきます。

まず、前回多くのご意見をいただき、ありがとうございます。

今年度の会議については、今回が最終回となります。

これまでにご議論をいただいた意見に基づき、答申案を作成いたしましたので、この答申案の確認を中心に行っていただくとともに、もう少し議論が必要と思われる事項等について、ご意見をいただきたいと思います。

事前に送付いたしました、「協働事業の評価手法等の検討に当たってご確認いただきたいポイント」に、今回の資料の趣旨と修正点については、記載させていただいておりますが、ここで改めて簡潔に、資料の説明をさせていただきます。

資料1「協働事業等評価制度について(答申)(案)」をご覧ください。

構成といたしましては、大きく「はじめに」、「協働事業等評価制度の構築に向けた考え方」、「参考資料」という三部構成としております。

「はじめに」では、これまでの取組や評価制度の必要性等について記載しております。

「協働事業等評価制度の構築に向けた考え方」については、これまでの会議でいただいた意見等を取りまとめたものでございまして、詳細につきましては、資料2と併せてご確認願います。

「参考資料」については、答申案の最後に添付するものでございます。内容といたしましては、検討経過、各委員からの意見を踏まえた協働事業等評価制度の検討状況、フロー図、チェックシートとなっております。検討経過を除き、資料2から4と同じものとなっております。

ます。

資料の修正点等についてご説明します。

資料2「各委員からの意見を踏まえた協働事業等評価制度の検討状況」をご覧ください。

答申案の基礎となっております、当会議におけるこれまでの検討状況の一覧で、前回、前々回の会議でいただいたご意見を整理したものでございます。

なお、最終的には、本日の会議でいただいたご意見も反映してまいります。

資料3「フロー図」をご覧ください。

こちらにつきましても、会議でのご意見等を踏まえ、前回の会議で提出いたしました資料の修正を行いました。

修正点といたしまして、前回の資料では、事業計画段階、事業実施段階、事業終了段階それぞれにおいて、自己評価・相互評価を行うこととしておりましたが、単発の事業でも事業実施中の評価は難しい状況もある一方、仕組みがないと協働ならではの質の違いを理解するタイミングもないため、「事業終了後の1回に限らず、事業実施前の事業計画策定終了時や事業実施中の中間時など、事業の実施形態や必要性を踏まえ、何度でも行うことが出来る」とし、併せて、長期にわたり実施される事業の評価のタイミングについては、「事業計画段階においてそれぞれ検討する」としました。

資料4「協働事業評価シート（案）」をご覧ください。

こちらにつきましても、前回の会議で提出いたしました資料を、いただいたご意見に基づき修正したものでございます。

まず、自己評価シートについては、大きく6点ございまして、1点目は、シート名を「自己評価シート（振り返りシート）」としました。

理由といたしましては、「評価と言うより振り返りシートと捉えれば有効な見直しにつながる」といった意見や、「振り返りという言葉であれば、反省から次につなげる改善点を見つけるという意味に捉えられる」といったご意見を踏まえたからでございます。

併せて、誰が作成したかわかるように設けていたチェック欄が、「団体側自己評価」、「市側自己評価」となっておりますので、「団体」を

「市民」に統一するなど、所要の修正を行いました。

2点目は、事業実施者についてです。

主体が複数いる協働事業の場合に対応できるよう、市民と市を分けず、事業実施者としました。また、「中間支援組織等協力者」欄を追加しました。

3点目は、5段階評価の評価項目で、「パーセンテージと言葉の表現について、20%以下がまったく達成されなかったとなっており、妥当かどうか検討する必要がある」とのご意見を踏まえ、「ほぼ達成されなかった」を「あまり達成されなかった」に、「まったく達成されなかった」を「達成されなかった」に修正しております。

4点目は、プロセスのチェックについてで、類似する項目を整理しました。

5点目は、事業の成果です。順番の入れ替えを行ったほか、事業の成果部分についての評価欄を削除しました。

理由といたしましては、対象者満足度は、主にアンケート結果等の結果から判断しますが、事業によっては馴染まないものもあるため、一律に数字として捉えることが難しいこと、また、自由記入欄に記載すれば足りるためでございます。

6点目は、「よかったこと・工夫したこと」、「今後やった方がいいこと」の記載項目がなかったとのご意見を踏まえ、「協働してよかったこと、協働で事業を実施するに当たって工夫したこと」、「協働で事業を実施して課題だったこと」、「今後協働事業を行うに当たって取り組んだ方がいいこと・改善したいこと」の項目を追加し、第三者評価の「協働の広がりの可能性」の欄につながるようにしました。

続きまして、相互評価シートについてでございます。

基本的には、自己評価シートに合わせての修正ですので、重複する箇所は割愛させていただきますが、相互評価については、市民側と市側がそれぞれ自己評価を行ったうえで、振り返りを行い、その結果をもとに、市民、または市の一方が振り返りの結果をこのシートに作成するものと考えております。

そのため、誰が作成したかわかるように、シート作成者欄を設けました。

なお、前回添付いたしました相互評価集計シートについては、事務局が集計のために使用するものですので、答申には含めない予定でございます。

続きまして、協働事業の評価に関する意見交換会ヒアリングシートについてでございます。こちらも自己評価シート同様、2点ございまして、1点目が、市民と団体が統一されておりましたので、統一いたしました。

2点目が、「よかったところ」を、「協働による成果や評価できる点」に、「工夫した方がよいところ」を「協働で事業を実施するに当たって工夫を要する点・改善点」と修正しました。

続きまして、第三者評価シートについてです。こちらも2点ございまして、1点目が、市民と団体が統一されておりましたので、統一いたしました。

2点目が、「協働の広がりの可能性」欄を追加しております。

資料の説明は以上でございます。

なお、答申には、資料2から4のほか、答申に至るまでの経過として、第1回の会議で提出したスケジュールを掲載する予定です。よろしく願いいたします。

(会長) 資料1については、内容の確認を、資料2から4については、議論が足りないと思われる部分や空欄になっているところなどを中心に意見をいただきたいとのことです。

資料1については、資料2を文章化したものですので、こちらを中心にご覧いただき、ご意見等をいただければと思います。

ご意見・ご質問はございますでしょうか。

(委員) 資料1の「協働事業等評価制度の構築に向けた考え方」でお願いがあります。目的と課題が何個あるのか、分かりやすいように書いてほしいです。目的と課題の関係や、課題と解決策の関係が見えやすいように記載いただければ、より分かりやすくなると思います。

(会長) 結びつきが分かりづらいものもあるかと思いますが、場合によっては、表現を箇条書きにするなど、できる限り分かりやすい記載をお願いします。

資料4の相互評価シートにある「シート作成者」は、個人名を記載

するという認識でよろしいでしょうか。

(事務局) そのように考えております。

(委員) 資料1の答申案に記載の「評価対象」について、これまで協働事業については検討してきましたが、行動計画については、具体的にどのように評価をするか議論になっておりません。来年度に検証の仕方を討議するのでしょうか。

(事務局) 行動計画の評価について、平成27年度から計画がスタートしておりますが、計画については、ご覧いただきますとよく分かるのですが、各取組を数値で評価できるものというより、仕組みの整備といった内容が中心となっているため、進捗状況の管理といったことが評価の中心になります。そのため、次年度につきましては、庁内に照会し、事務局がとりまとめを行った後、本会議に報告して、状況を把握いただいた上で、具体的な提言をいただくことを想定しております。次年度以降につきましては、行動計画の評価の手法も会議の中でご議論いただければと考えております。

(会長) 行動計画については、進捗状況を確認していくようになりますが、今年度については詳細な議論の対象となるものではないということです。

(委員) 資料4の「自己評価シート（振り返りシート）」について、上の欄は事業名称や内容等、事業の概要を記載する欄になりますが、「中間支援組織等事業協力者」の欄にだけ「効果」があります。中間支援組織の方々がどのように機能し、有効であったかという点については、記載位置を変更し、評価対象とした方が良いのではないのでしょうか。

(会長) 今の意見を踏まえ、どのような位置に記載するべきかという議論になるかと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) 必ずしも全ての事業に中間支援組織が関わるわけではないため、全ての事業にこの項目が必要なかどうか、また、中間支援組織の効果はまさしく「評価」であるため、事業の成果の方に入れるのかということについても、本会議の中でご議論いただければと考えております。

(会長) 外すのではなく別の欄に位置を変更するという意見でしたが、順番等を含めて正副会長預かりでよろしいでしょうか。

(委員) 中間支援組織の効果は位置を変更し、役割は総論に残すという認識

で良いのでしょうか。

(会長) このシートの総論は、どちらかと言うとネーミングに係る設問であるため、事業の成果の欄に役割と効果の両方を記載する方がすっきりすると思いますが、いかがでしょうか。今の議論を踏まえ、記載しやすい形にできるよう、正副会長で検討させていただきたいと思います。

(委員) 資料1の4(3)第三者評価のイ「第三者評価の対象となる事業」の中で、「評価対象となる協働事業は、推進会議が選定し、評価を行う」とありますが、事業の選定方法に偏りが無いよう、より一層議論した方が良いのではないのでしょうか。また、答申にページ数をふってほしいです。

(会長) 次年度、実際に評価作業が始まれば、本会議においても選定及び評価に当たっての責任が出てくると思います。しかし、実際に作業を開始すれば技術的な難しさ等も出てくると思うので、今の時点では文言を修正しなくても良いと考えますが、いかがでしょうか。

(委員) 事業の選定基準は何なのでしょう。良い事業と悪い事業の両方を選ぶ場合もありますし、ランダムに選んだ方が良い場合もあると思います。

(会長) 実行可能性の評価を前提とした上で、どのように選定するか考える必要があると思います。材料が揃わないと議論できない部分もあるため、本日の会議では選定基準の検討は行いませんが、バランスを意識しながら、選定作業が円滑にいくよう準備及び議論していく必要があると思います。そのための資料作成も、事務局にお願いしたいと考えています。

(委員) 資料1の4(3)イに記載の、「なお、評価対象となる協働事業の選定に当たっては、府中市が目指す協働の方向性等と齟齬が生じることのないように、」とありますが、この表現が分かりにくいと思います。

(事務局) 資料3の協働事業評価フローをご覧ください。評価対象事業の選定に当たって、庁内の協働事業は平成26年度実績で約160事業あります。この約160事業の中から対象事業を絞り込む作業を本会議の中で行っていただくのは、時間的に厳しいと考えております。そのため、次年度につきましては、庁内の各調整担当課長等で構成する市民協働推進委員会において、総合計画等を踏まえて絞り込みを行い、そ

の中からいわゆる協働のパイロット事業として、積極的に協働を進めていきたい事業を中心に案を取りまとめ、会議に提出しようと考えております。

なお、今後府中市として協働を積極的に進めていく中で、協働とはそもそもどういうものなのかということ、このパイロット事業を通して市民の皆さんに知っていただき、関わっていただきたいと思っています。

(会長) 市も市民も、協働についての捉え方は多様ですので、総合計画で目指している協働の方向性やパイロット事業等を意識しながら、正確に行う必要があると思います。

(委員) 今のような説明があれば分かるのですが、そうではない人たちに誤解を与えないように説明していただければと思います。

(委員) パイロット事業を出していくためにはいいのですが、約160事業のうち、評価対象に選ばれなかった残りの140事業はどのようにチェックするのでしょうか。1年目は、パイロット事業を見せることによって、選ばれなかった事業に対し、「このように頑張れば良いですよ。」と市内に周知しても良いと思いますが、2年目はやはり160事業全てをチェックし、ランダムに選定した方が良いのではとも考えます。

(会長) 評価に当たって、協働の要素を色濃く持つ事業を選んでいくことが、パイロット事業と重なりを持つと考えると、1年目の最後にそのような事業を中心に選んでいくという方法があると思います。

また、委員会での絞り込み作業については、どのようなプロセスで選定されたのかということを知ること必要であると思いますので、要望として伝えたいと思います。

(委員) 評価対象以外の事業について、相互評価シートを回収し、市の内部だけでなく本会議でも確認した方が良いと思います。相互評価集計シートは数字だけなので、簡単な評価が分かるよう工夫をすれば見やすくなるのではないのでしょうか。

選定された事業だけでは協働事業全体の進捗を確認できず、全体を把握するためにご検討いただければと思います。

(会長) 約160事業を20～30事業に選定する作業の中で、シートを工

夫し全体を確認できるようにすることで、その後の評価対象事業の選定にも生かすことができると思いますので、要望として伝えたいと思います。

(委員) 選定されなかった事業も確認できることで、「この事業の方が良かったのではないか。」と言える環境があった方が良いと思います。

(会長) 今後、委員会の中でどこまでこの意見を反映してもらえるかということにも影響してくるので、要望として伝えさせていただければと思います。

(委員) 様々な事業を市役所と実施していますが、このようなシートを使うケースと使わないケースがあります。しかし、シートがあることで、お互いに意識するということが非常に多いため、使いにくい点等があれば担当課から挙げてもらい、来年度以降修正していけば良いのではないのでしょうか。完全ではなくても、トライアルでスタートさせ、改善していけば良いのではないかと思います。

(委員) お願いをするに当たっては、時間がどれくらいかかるかを踏まえて検討する必要があると思います。検討のないまま依頼をした結果、忙しいからそんな暇はないとならないのでしょうか。

(会長) 本日の会議で検討いただいている答申案は市長に提出することになりますが、市長が受け取って判断することになるのではないのでしょうか。このことを前提にした上で、要望を答申の際にお伝えすることはできると思います。

やはり、市役所の多くの部署において、仕事の進め方や協働事業の捉え方に違いがあると思いますので、この作業が一つの形式としてきっかけになればと考えています。その結果、協働事業であると思って実施していたがそうではなかったというものもあると思いますので、シートを活用していただきたいと思います。

先ほどの「齟齬が生じることをないように」という表現についてですが、協働の方向性とずれないようにといった趣旨だと思います。「府中市が目指す協働の方向性を鑑み」といった表現があるかと思いますが、正副会長預かりでよろしいでしょうか。

(委員) もっと分かりやすい方が良いのではないのでしょうか。曖昧な表現は良くないと思うので、誰がどのように選定するか、書いてしまって良

いのではないのでしょうか。

(会長) 様々な業務を行ってきた中で、「答申を尊重し、」という表現が良くありますが、答申の通り必ずそうしなければならないというわけではありません。「鑑み」という言葉もあまり日常では使いませんので、少し強いような気がします。「踏まえて」のような表現もあるかと思えます。

「協働の方向性とズレがないように」という表現も、答申の文章としてはどうかと思えますので、「鑑み」くらいの表現が良いのではないかと思います。よろしいのでしょうか。

(委員) この文章が分かりにくいのは、どこに言葉がつながるのが曖昧な点であると思うので、語順を入れ替えれば良いのではないのでしょうか。齟齬が生じることのないように選定するという意味でよろしいのでしょうか。

(会長) 文章を一度、「鑑みる。」で切るのが良いのでしょうか。

(委員) 「生じることのないように」という表現が分かりづらいのではないのでしょうか。

(副会長) 会長が言ったように、「鑑み、」で良いのではないかと思います。

(委員) 資料1の4評価制度(各論)(3)ウにおいて、「第三者評価の結果が可能な限り次年度の予算に反映できるように、」とありますが、次年度では予算に反映できないのではないのでしょうか。ここでは、翌々年度予算のことを示しているのでしょうか。

(会長) 第三者評価を行った次年度という意味ではないのでしょうか。

(委員) 予算への反映は翌々年度という認識で良いのでしょうか。

(会長) 事業実施の2年後に反映するということになります。

(委員) 例えば3ヶ月の事業であれば、その事業終了後に評価をするというのが通常なのではないのでしょうか。

(会長) 上半期に終了した事業をそのタイミングで評価するというのは、理論的には可能だと思いますが、ここで想定しているものは単年度で、1年間かけて行う事業ですので、翌年度に第三者評価を行い、その翌年度の予算に反映するという認識だと思います。

様々な場合が想定されるので、答申を出した後、市長の答申に対する考え等を踏まえて、作業に入っていくものと思います。先々の宿題

の一つかと思います。

(委員) 市の予算化の仕組みは分かりますが、次年度に反映できなければ、3年越しになるということになります。市民側からすれば、来年やりたいと思うのではないのでしょうか。第三者の評価は予算には反映できませんが、それ以外の部分は可能な限り次年度に反映していただく方が、市民側の要望としては良いのではないのでしょうか。

(会長) この意見は、評価結果の公開にも関わることだと思います。5その他(1)にある通り、評価結果は原則公開することなので、「できるだけ早く」という文言を必要に応じて入れていただければ、結果を有効に活用していただくことができるのではないかと思います。

(委員) 早ければ一番良いとは思いますが、「自己評価」と「相互評価」はすぐ反映できると思いますので、第三者評価はタイムラグがあるのはしょうがないのではないのでしょうか。自己評価や相互評価において、反映できるところから反映していただくのが良いのではないかと思います。

(会長) 蓋を開けてみなければ分からないので、今の段階でできるだけ早くという表現は入れにくいと思いますし、次年度の作業を滞りなく行うことが前提ではないかと思います。この点に関しても、次年度の作業の中で意識していければと思います。表現については正副会長預かりとさせていただきます。

(委員) 評価シートについて、「事業目的」と「事業目標」の欄があるが、評価はどちらに対して行うのでしょうか。自己評価シートと相互評価シートには「事業目的」と「事業目標」の記載がありますが、ヒアリングシートと第三者評価シートには「事業目的」しかないので、統一していただきたいと思います。

(会長) 統一されるような表現を検討したいと思います。

それでは、議論がつきませんが、時間もございますので、事務局は議論を踏まえ、修正等をよろしくお願いします。

また、内容の確定、答申までのスケジュールについて確認しておきたいので、事務局は説明をお願いします。

(事務局) 内容の確定と答申までのスケジュールについてご説明いたします。

今回いただいたご意見を踏まえ、資料2に今回皆様からいただいた

ご意見を追加するとともに、答申（案）の修正を行います。このため、委員の皆様には、会議録の確認と併せて、答申（案）のご確認をいただきますので、よろしく申し上げます。

なお、会議録及び資料の確認期間といたしまして、3月7日（月）から14日（月）を予定しております。

皆様にご確認いただいた結果を踏まえ、事務局において内容の調整を行い、正副会長のご了承をいただき、市長に答申をいただきたいと思いますと考えております。

また、答申書の提出でございますが、3月中に正副会長に代表して行っていただきたいと思いますと考えております。

つきましては、内容の確定と答申までのスケジュールについて、本会議のご判断をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

（会長） 事務局から内容の確定方法とスケジュールについて、説明・提案がありました。

今回の意見を反映して、資料の修正を行ったうえで、委員の皆さんに確認いただき、その後正副会長預かりと言うことで、内容を確定し、市長に答申するというように進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

（会長） それでは、事務局は資料の修正等申し上げます。

3 その他

（会長） 続きまして、その他ですが、事務局から連絡事項はありますでしょうか。

（事務局） 事務局から1点、次回会議の開催について事務連絡がございます。

冒頭お伝えしましたが、今年度の会議は本日が最終回となります。

委員の任期は2か年でございますので、原則このメンバーで評価作業等をお願いすることとなりますので、平成28年度もどうぞよろしく申し上げます。

なお、次回会議の日程ですが、5月下旬から6月上旬頃の開催を予定しております。日程が近付きましたら、別途調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後に事務局を代表いたしまして、市民協働推進本部長の中川よりご挨拶をさせていただきます。

(市民協働推進本部長挨拶)

(会長) それでは、次回は5月頃とのことですので、会議の開催日程の調整もお願いします。最後に副会長からご挨拶をお願いします。

(副会長挨拶)

(会長) それでは、以上をもちまして、第4回府中市市民協働推進会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

以上